

平成30年度長崎北高等学校 学校評価

1 学校評価アンケートで評価が高い項目（4, 3, 2, 1の4段階評価の平均が3.3以上）

	項目（数値）
生徒	北高は、朝の10分間読書の時間が十分に確保されている。（3.4）
	学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。（3.3）
	容儀・服装に注意し、あいさつがきちんとできている。（3.3）
	下校時間を守り、適切な時間に帰宅している。（3.4）
	周囲や相手のことを思いやって生活している。（3.3）
	北高は、教育に必要な施設や設備が整っている。（3.3）
保護者	北高は、容儀・服装指導を適切に行っている。（3.3）
	北高で行っている朝の10分間読書は意義がある。（3.3）
	子どもは、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。（3.3）
	子どもは、適切な時間に帰宅している。（3.4）
	子どもは、バスの中など校外でもマナーを守り、周囲に迷惑をかけないようにしている。（3.4）
	北高は、掃除が行き届いており、子どもは環境問題を意識した行動ができている。（3.3）
職員	北高は、教育に必要な施設や設備が整っている。（3.3）
	学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加するよう指導している。（3.3）
	生徒の疾病や事故に迅速・適切に対応している。（3.5）
	学校は、生徒がいつでも学習できるような教育環境を整えている。（3.3）
	生徒・保護者からの相談によく乗っている。（3.3）
北高はホームページの更新や北高Newsを通じて適切に広報活動を行っている。（3.3）	

2 学校評価アンケートで評価が低い項目（4, 3, 2, 1の4段階評価の平均が2.8以下）

	項目（数値）
生徒	北高は、生徒一人ひとりの能力に応じた適切な学習指導を行っている。（2.8）
保護者	北高は、職業について、生徒に具体的に考えさせる指導をしている。（2.8）
職員	校務が円滑に推進できるよう、分掌間・学年間の連携がよく図られている。（2.8）
	各分掌の内規の見直し、先を見て適切に行われている。（2.6）
	生徒の授業態度は意欲的である。（2.8）

3 重点目標とアンケートの状況

(1) 心豊かでたくましい人間力の育成

- ① 切り替えへの働きかけにより、「学習を基軸に据えた部活動との両立」を果たすタフな精神力を育む。
- ② 挨拶、マナー、端正な身なりなどの意識の向上と実践を図り、豊かな品性、北高生としての自覚と誇りを育む。
- ③ 清掃活動や教室・部室などの整理整頓に努めさせ、感謝の気持ちや公共心、公德心と共に気が付く心を育ませる。
- ④ 時間や提出期限の厳守、3点固定による生活リズムを確立させ、自己統制能力を育てる。
- ⑤ 学校行事、生徒会活動、HR活動、部活動などに積極的に取り組み、リーダーシップ・フォローシップの体得及びコミュニケーション力などの向上を図り、問題解決能力を育ませる。
- ⑥ 『道徳教育全体計画』に基づき、「あらゆる場面で道徳教育」との認識で教育活動を展開し、特に、生命の尊厳、個や人権の尊重について深く理解させ、自他共に思いやる心を育ませる。

- 北高生活の充実に関しては、保護者・生徒ともに3.2と良好な評価である。
- 「北高は学習と部活動の両立をよく図らせている」という設問に対する評価は保護者3.1、生徒3.0である。
- 容儀・服装指導に関しては、保護者・生徒ともに良好な評価である。生徒の意識が向上しており、保護者も適切に指導されていると感じている。職員の共通理解のもとでの指導が奏功している。
- 清掃に関しては、生徒の取組に対する評価は高い(3.2)が、「北高は掃除が行き届き、いつもきれいである」という設問に対する評価は3.0である。生徒自身に北高がきれいになったと感じさせる清掃指導を行う。一方で、保護者は掃除が行き届いていると感じており、評価は3.3であった。
- 学校行事・生徒会活動・部活動への参加に関しては、保護者・生徒ともに良好な評価である。部活動の時間が確保されていること、学校行事において生徒が活躍できる場面が多いことが評価されたと考える。ただし、「生徒会活動が活発である」という設問に対する評価は保護者3.0、生徒2.9であり、多くの生徒にとって生徒会執行部の活動が見えていないのではないかと。また、全員係制の活動を生徒会活動と捉えていないことも考えられる。
- マナーや周囲への思いやりに関しては、保護者3.4、生徒3.3といずれも良好な評価である。特にバス乗車マナーについては、機会をとらえて教員からも生徒会からもマナー向上を呼び掛けている。

(2) 学びの体幹強化と進路実現

- ① 朝読や図書館利用促進などを通じて、生涯学習、生きる力の基本としての読書啓発を促進する。
- ② 独自教材の作成・活用や授業規律の徹底など、計画的で組織的な各学年の導入期指導を実施する。
- ③ 教材研究と授業法研究を徹底し、互観授業、生徒による授業評価も活用し、主体的・対話的で深い学びの実現へ向けて授業改善(授業のPDCAサイクルの確立)に取り組む。
- ④ スタ・サボ、定期考査、対外実力・模試、センター試験、大学入試問題などの分析・検証を通じて、授業改善(授業のPDCAサイクルの確立)に取り組む。
- ⑤ コツコツの精神を浸透させると共に、『生活の記録』を用いて自己管理能力、時間活用能力を育成し、3時間以上の家庭学習を確保させる。
- ⑥ 『進路シラバス』の活用、総合的な学習の時間、進路講演会などを通じて、進路選択能力の育成を図る。

- 生徒一人ひとりに応じた学習指導に関して生徒からの評価が2.8と低く、生徒の「もっと自分を見てほしい」という気持ちが垣間見える。また、「わかりやすい質の高い授業を行っている」という設問に対する評価は3.0であり、理解させることを意識した教員の取組と振り返りが今以上に求められる。
- 職業についての指導に関しては、保護者2.8、生徒2.9となっている。1年次の総合的な学習の時間に文理選択と関連させて学部学科研究・職業研究を行っているが、今後は総合的な探求の時間の取組と絡めて、職業やキャリアについて考えさせる仕掛けを取り入れたい。
- 「家庭学習によく取り組んでいる」という設問に対する評価は、保護者2.9、生徒2.9である。今後も、生活の記録の活用等を通して、3時間以上の家庭学習時間を確保させる指導を継続的に行っていく。
- 進路情報の提供に関しては、保護者・生徒ともに良好な評価である。しかし、きめ細やかな進路指導に関しては生徒3.1、保護者2.9と差が見られ、教員と生徒の面談等の内容が保護者に伝わっていない場合があることが考えられる。

(3) 保護者・地域の期待に応える学校づくり

- ① 保護者への連絡を密にし信頼関係を築くなかで、生徒が社会人として自立できるよう援助する。
- ② P T A活動への積極支援、保護者の来校機会の増設により、保護者との連携、相互理解を一層深める。
- ③ 面談活動や観察による生徒理解に努めるとともに、特別な配慮や支援が必要な生徒に対しては、カウンセリング委員会、特別支援教育推進委員会などの組織的な対応と支援を行う。
- ④ 安全で安心、より豊かな教育環境を提供する。
- ⑤ 少人数クラス編成、35コマ授業、海外語学研修、高大連携事業、長大生インターンシップ制度、北高祭、長崎北高ココデショ、青志寮、青志奨学金制度など、本校の特色ある教育活動をさらに進化させる。
- ⑥ Webページやメールメイト、『長崎北高NEWS』などを通じて、積極的に情報発信と情報公開に努める。

- 「北高は、保護者の意見によく対応している」という設問に対する保護者の評価は3.0である。今後も丁寧な対応を心がける。
- P T A活動の活発さに関しては、保護者の評価は3.0である。P T A広報委員会、P T Aバザー、うどん炊き出し等に非常に協力的であり、スムーズに運営できている。地区P T A研修会の参加者数も目標を達成できた。
- 生徒の不安や悩みへの対応に関しては、保護者・生徒いずれも2.9とやや低い。今後も学期ごとに実施する悩み調査のほかに、相談室だより等を通じて対応の窓口を周知し、教員自身が相談されやすい雰囲気をつくるよう努める。
- 今年度初めて、いじめの予防と対応に関する設問を設けたが、保護者の評価は3.0、生徒の評価は2.9である。今後も、職員の研修を深めて組織的に対応できる体制をつくっておくとともに、「学校いじめ防止基本方針」の保護者・生徒への周知を徹底する。
- 広報活動に関しては、保護者・生徒ともに良好な評価である。今年度はホームページのブログ記事の更新に力を入れ、更新数は100を超えた。（昨年度は26）

4 学校関係者からの意見・助言等

- 膨大な量の書類の提出が求められるAO入試を含め、入試情報等を現役大学生の卒業生からも入手し、今後の生徒の指導に役立ててほしい。入試に向かう3年生にはより一層のケアをお願いしたい。高校で培われたものが子どもたちの力になっている。
- 生徒会活動については、活動の内容を生徒自身に低学年のうちからしっかり知らしめておくことよい。生徒が受身にならず主体的に取り組めるよう工夫してほしい。
- 「悩み調査」にいじめについての評価を加えたことはよい点である。悩みのある生徒に対してその後どのようにケアするかが大切である。
- 「学校評価」における評価が低い項目や昨年に比べて下がった項目について今後どう対処していくかが重要である。
- 3学年において考査の欠点者がいないのは嬉しい。また、出席率が全学年において99%以上であるのは実に素晴らしい。P T A総会の出席率が伸びていることも評価できる。
- 本校の働き方改革や部活動の外部指導員の配置、あるいは、広域通信制高校への進学増加などへの将来的な対応についても一考いただきたい。
- 地元中学校の課題である英語と学習時間が高校でも課題になっている。現在中学1年生は80名。今後の北高への進学者の確保のため、北高ならではの特色についてアピールをお願いしたい。

5 学校側の取組

- 職員全体で足並みをそろえて、本校の校是である『両道顕揚』を実現するための取り組みをさらに進めていく。挨拶・身なり、掃除等の生徒指導を基盤とし、学習・進路指導の充実と部活動の活性化に取り組むとともに、より細やかな生徒への対応に努め、心身の発達を促したい。学校関係者や地域住民のみならず広く県民からも評価される学校作りに取り組んでいく。
- 地元で愛される学校作りを進めるために、地域との交流やPTAを始めとした関係団体との連携を一層強化していく。
- 広報は、北高の教育活動への理解を広げるだけでなく、生徒募集にも直結する大事な問題である。オープンスクールや学校開放などの工夫、学校案内や北高ニュースなどの紙媒体の改善、HPなどのWeb情報の更新など特に留意して引き続き充実に努めたい。また、懸垂幕についても逐次更新して、新鮮な情報を発信できるよう努める。